

項目		発言者	意見内容	総括	対応方針
施設計画について	オープンスペースについて	伊野委員	オープンスペースの管理は誰が担うのか。	誰もが安全かつ快適に利用できる施設となるように、建築計画と管理運営の両側面から検討を進める。また、今後の施設設計等において具体的な検討を進める。	複合施設の所管については生涯学習支援課となる。施設管理については、指定管理者等の民間事業者が行うことを想定している。
		滝本委員	オープンスペースの貸切利用については、5日間程度の連続使用が可能な柔軟な貸出方法にしてほしい。		ご意見として承った。利用しやすい諸室の貸し出しルール等については利用者から意見をいただきながら今後検討を進める。
		木村委員	オープンスペースには死角がないような空間としていただきたい。		利用者が安全かつ快適に利用できるよう、今後の施設設計及び管理運営等の検討において配慮する。
		小杉委員	2階のオープンスペースには死角や管理面で懸念がある。安心して利用できる環境づくりのためには、大人の目が届く設計や管理体制の工夫が必要である。		
		川崎委員長	オープンスペースについて様々な意見があるが、諸室には常に大人の目があることを前提とした設計であり、管理の目が届かない構造にはなっていないと考えられる。		ご意見として承った。今後の検討において参考とする。児童館の関係者等との対話を通じて、最適な規模等について検討する。
		川崎委員長	1階の多目的室を2階に移して、1階のオープンスペースを拡げる案も検討すべきではないか。		
	個別機能について	藤田委員	車椅子ユーザーにとっては、乗車・降車時に屋根があると非常に便利だと感じる。		
		藤田委員	テラスの大きさや使い方については、児童館の利用者と意見交換をした上で妥当性を検討する必要があると感じている。		
		藤田委員	エレベーターの大きさについて、車いす2台もしくはベビーカー利用者が同時に乗るためには18人乗りの方が適していると感じる。		現在は15人乗りを想定しているが、今後の施設設計等において参考とする。
		佐藤委員	山車や御輿などのお祭り用品を保管できるスペースを敷地B周辺に設けてほしい。		ご意見として承り、庁内で検討する。
	建物内部のデザインについて	木村委員	施設内部は透明なガラスなどを用いて空間が広く見えるような工夫をしてほしい。		死角が多くなると人の目が届かないことで、子どもたちの非行の温床にならないよう十分な配慮が必要と認識している。ご意見として承り、施設設計等で検討する。
		前田副委員長	建物内部の設計については、明るさや管理のしやすさに配慮し、ガラス張りなどの素材選定が重要である。設計段階では、間取りだけでなく素材や動線を含めて、設計者による柔軟な検討が期待される。		
	避難経路について	藤田委員	複合施設内における、車椅子利用者の避難経路の確保が懸念事項である。	建物内部だけでなく、各敷地の外構や各敷地間及び日野宿本陣等の周辺施設との間の動線についても配慮しながら検討を進める。	現在の計画はモデルプランであるため、今後の施設設計等において検討する。
		伊野委員	不審者対策として、2階に避難用の扉をもう一か所追加で設けることを検討してほしい。		
	外構について	宮崎(精)委員	敷地Aの複合施設について、南側の広場から北側の駐車場に抜けられる道や通路があるとよい。		オープンスペースと同様に施設の指定管理者等の民間事業者が行うことを想定している。
		小池委員	北側からの歩行者や自転車利用者に配慮した動線や駐輪スペースの整備が必要である。		
	敷地C（駐車場）について	宮崎(精)委員	敷地Cの駐車場について、敷地と道路の接続方法については様々なパターンを検討する必要性がある。		ご意見として承った。今後の検討につなげていく。
		滝本委員	敷地Cの駐車場は、誰が維持管理を行うのか。		
	その他	谷井委員	日野宿本陣の駐車場機能を敷地Cへ移転することについて、本陣建物の甲州街道からの視認性を高めることや、観光イベント等における現駐車場部分の有効活用など、日野宿や新選組を楽しめる場として、関連施策として同時に進めてほしい。		ご意見として承った。利用者の利便性が高い施設となるよう、庁内で検討する。
		宮崎(精)委員	敷地Cから日野宿本陣へアクセスするための歩行者用信号機があると、行き来が自由になりより良くなる。		
ローリング（建替え）計画について	代替施設について	菊地委員	視覚障害者向けの音訳活動を行っているボランティアサークルにとって、工事中は音や振動の影響で活動が困難になる可能性が高く、静かな環境が必要であることから、代替施設の確保を強く希望する。	工事期間中の課題等を踏まえて、代替施設による機能の一時移転を含めてローリング計画の検討を進める。	ローリング計画と併せて代替施設の確保についても庁内で検討する。
	桑ハウスの活用について	伊野委員	桑ハウスを児童館の代替施設として活用することを検討してほしい。		ご意見として承った。桑ハウスの活用については庁内で引き続き検討する。
		宮崎(竹)委員	桑ハウスにはトイレがないため子供たちにとって不便である。		
施設のマネジメントについて		川崎委員長	施設全体のマネジメント体制の整備が必要であり、生涯学習支援課だけで担うのではなく、施設全体での管理体制を市に検討してほしい。	施設のマネジメントにおいては、関係者と密に連携しながら検討を進める。	ご意見として承った。今後の検討につなげていく。
		川崎委員長	2階のオープンスペースには課題があるが、その解決は事業者による性能発注で対応すべきである。		
		伊野委員	2階のオープンスペースは子どもたちが利用するため、民間ではなく、信頼関係のある児童館職員による管理が望ましい。		事例等を通じて分かりやすい説明となるように配慮する。
		木村委員	図書館と児童館が1階と2階に分かれて配置されていることで、建築時にどのような課題があり、それをどう解決したのか、具体的な施設の事例を通してヒントが得られれば、それを共有してほしい。		
基本計画における記載について		前田副委員長	敷地Aの配置は、福祉センターを残す前提で記載していることを基本計画に明記しておくことが望ましい。	基本計画において明記すべき事項について検討を進める。	ご意見として承った。基本計画の策定にあたり参考とする。
		川崎委員長	生涯学習支援課職員の配置については、基本計画に記載する際は「未来永劫の配置」と誤解されないよう、「開業当初の体制」として記載するのが適切である。		